

社会科学習指導案

平成30年6月29日(金) 第4校時 2年B組教室

授業学級 2年B組(39名)

授業者

指導教諭

1 単元名 「開国と近代日本の歩み」(産業革命と19世紀のヨーロッパ)

2 主眼

イギリスの工業生産が急激に伸びた理由を考える場面で、当時のイギリス社会の様子に着目し、資料「ワットが改良した蒸気機関」「交通革命」などを読み取ることを通して、当時のイギリスが産業革命を迎えて資本主義が発展し、資本家が利潤を求めて労働者を酷使しながら大量の工業製品がつくられ輸出されるようになり、工業生産高が一気に伸びたことが分かる。

3 本時の位置(全6時間中 第1時)

前時: 近代革命の時代

次時: ロシアとアメリカの発展

4 本時の評価規準

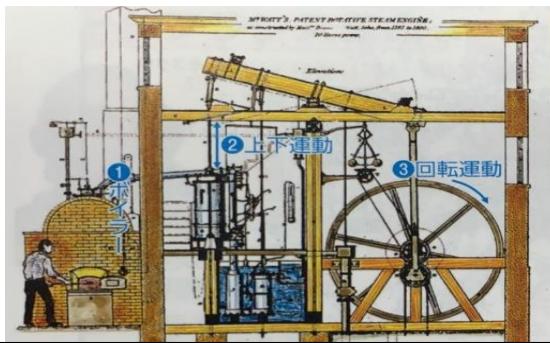
当時のイギリスが産業革命を迎えて資本主義が発展し、資本家が利潤を求めて労働者を酷使しながら大量の工業製品がつくられ輸出されるようになり、工業生産高が一気に伸びたことを説明している。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考
問題把握／追究／まとめ	1 資料を読み取り、学習問題を設定する。	ア うわ、だいぶ伸びたね。 ウ 石炭や鉄も同じ時期に急激に上がっているね。 エ なぜこんなに一気に伸びたんだろう。 学習問題:なぜイギリスの工業生産が急激に伸びたのだろう。	◇導入資料1を提示し、イギリス工業生産の急激な伸び率を読み取らせる。 ◇エのような発言を取り上げて、全体に確認し、学習問題を設定する。	5分	導入資料1「イギリス工業生産の伸び率」
	2 学習問題に対して予想を立てて発表し、追究の見通しをもつ。	オ たくさん的人が工場で働くようになったからではないか。 カ 原料がイギリス国内にたくさん見つかったから。 キ 導入資料のような技術の発展があったからではないか。 学習課題:当時のイギリス社会の様子に注目して考えよう。	◇ワークシートを配布し、学習問題に対する予想を記入し、発表するように促す。 ◇オ・カ・キのような発言を取り上げ、クラス全体に確認しつつ、学習課題を設定する。	10分	
	3 予想を明らかにするための資料を読み取り、分かったことを発表する。	ク 資料1から、ワットの蒸気機関が広く利用され、とくに綿製品の効率が一気に上がったことが分かる。 ケ 資料2から、交通革命が起こり、大量の人や物資などを短時間で各地に輸送することができるようになったことが分かる。 コ 資料3から、イギリスが加工貿易で世界の中心となり、「世界の工場」と呼ばれていたことが分かる。 サ 資料4から、資本主義の仕組みができていたことが分かる。 シ 資料5から、当時産業革命の中で、社会問題や労働問題が起こっていたことがわかる。 ス 資料6から、社会主義の考え方方が生まれたことが分かる。 本時の評価規準に達していない生徒への手立て ① 社会の仕組みが分からぬ生徒には、資料5、6を共に考える。 ② 産業革命の様子を捉えられない生徒には、主に資料1、2を共に考える。	◇資料1～6を配布し、資料から読み取ることをワークシートに記入するように促す。 ◇机間指導を行い、それぞれの資料をどのように読み取っているかを確認しながら指名計画を立てる。 ◇ひとつひとつの資料の読み取りで終わっている生徒には、関連している内容を矢印や線で結び、複数の資料を関連付けて読み取るように助言する。 ◇ワークシートに記入したことを発表するように促す。 ◇発表された意見を、イギリスの産業革命の構造が分かるように整理しながら板書していく。	25分	資料1「ワットが改良した蒸気機関」 資料2「交通革命」 資料3「貿易の中心となったイギリス」 資料4「資本主義」 資料5「労働問題・社会問題」 資料6「社会主義」
	4 今日の学習を振り返り、分かったことをまとめる。	セ 当時のイギリスが産業革命を迎えて、資本主義が発展し、資本家が利潤を求めて労働者を酷使しながら大量の工業製品がつくられ輸出されるようになり、工業生産高が一気に伸びた。 ソ この後、イギリスは世界にどんな影響を与えたのだろうか。	◇今日の授業を振り返り、分かったことや考えたこと、さらに調べてみたいことをワークシートに記入し、数名に発表するように促す。 ◇ソのような発言を取り上げ、次時の学習につなげる	10分	

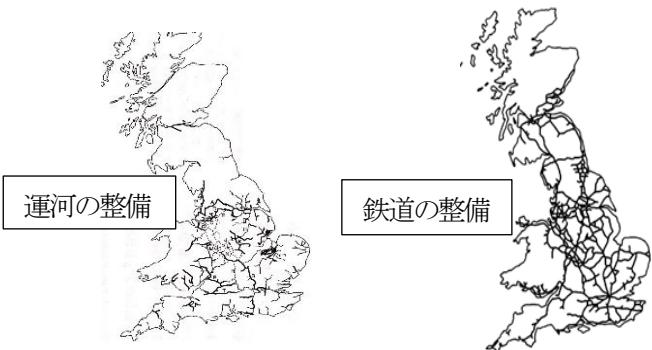
6. 反省

資料1 ワットが改良した蒸気機関



ワットの蒸気機関は工業品を作る機械や蒸気船、蒸気機関車などに利用された。手工業から機械工業に代わり、とくに綿製品の生産効率は手工業の200倍と格段に上がり、大量の綿製品が作られた。

資料2 交通革命



産業革命期には、運河や鉄道が次々と整備された。これら交通の面での発展を交通革命と呼び、大量の物資や人を、短時間で各地に輸送することが可能になった。

資料3 貿易の中心となったイギリス



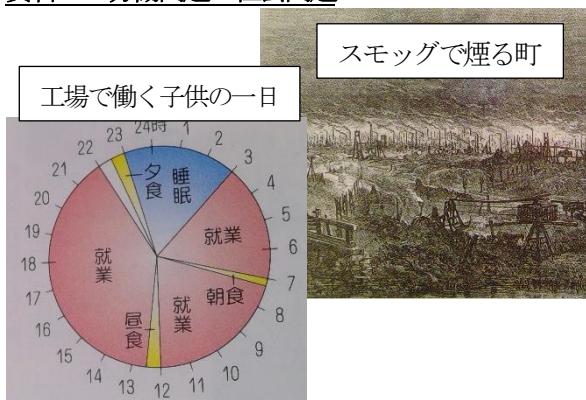
大量生産・大量輸送を可能にしたイギリスは、世界各地から主に原料を輸入し、それを加工し製品として輸出した。やがてイギリスは世界の工業生産高の約半分を占めるようになり、「世界の工場」と呼ばれた。

資料4 資本主義



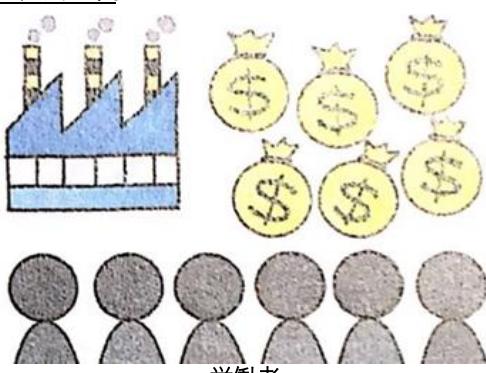
産業革命により、豊かな資本家（工場や土地などの財産を持つ人）が、貧しい労働者を大量に雇って、利益拡大のために、自由に生産し競争しながら成長していく仕組みになっていた。この仕組みを資本主義という。

資料5 労働問題・社会問題



この時代の労働者は、子どもや女性でも低賃金で長時間の重労働をさせられた。
町は工場の廃棄物で川や空気が汚れ、生活環境が悪化して疫病も流行した。

資料 6 社會主義



種々の問題を起こした資本主義を批判。資本家をなくし、階級のない労働者だけの平等な社会を目指し、それぞれに財産を持たせずに国が管理する仕組み。この考え方を社会主義という。しかし、個人の財産が認められないので、もうけようと努力・競争しなくなり、資本主義のような発展ができない。